

2008年3月期下半期のスタートにあたって

代表取締役社長 佐藤 潔

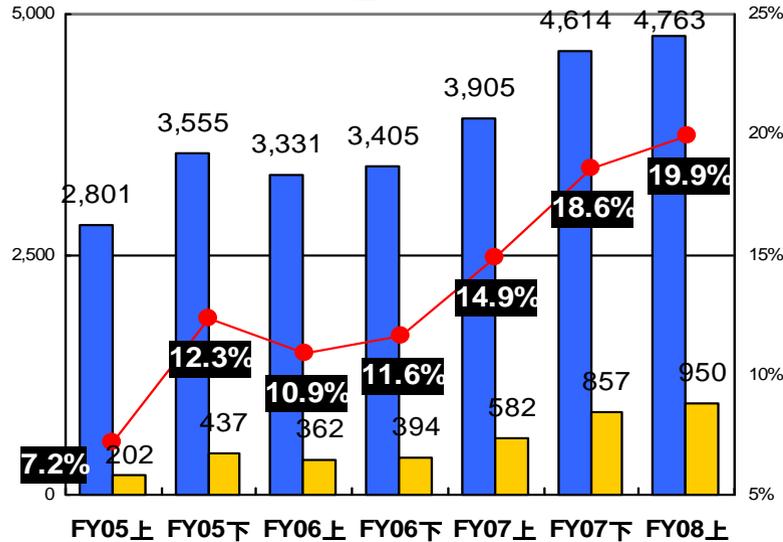
2007年11月13日

2008年上半期の成果

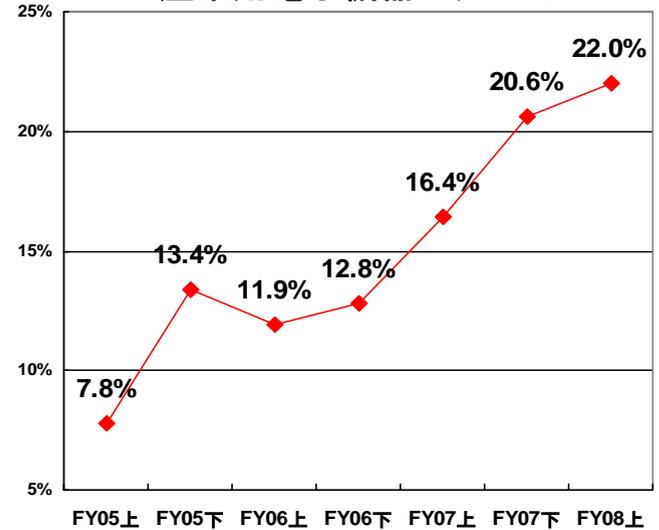
▶▶ 中間期ベースで過去最高の売上、利益を達成

(単位: 億円)

連結



産業用電子機器セグメント



SPE部門の利益率が改善

1. 新製品効果
2. 品質の改善

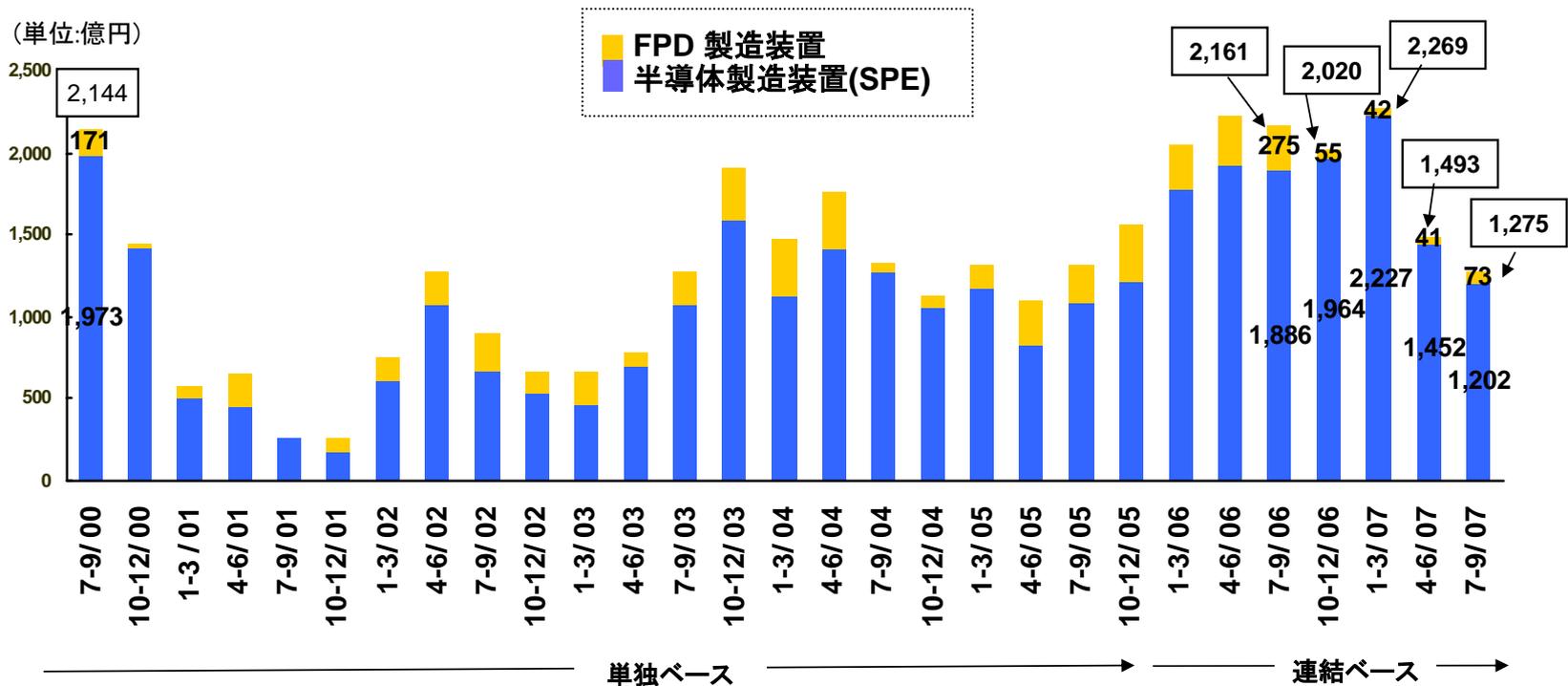


TELを取り巻くビジネス環境



四半期 SPE+FPD受注額

▶▶ 高水準に推移した受注状況から、一時的な調整に



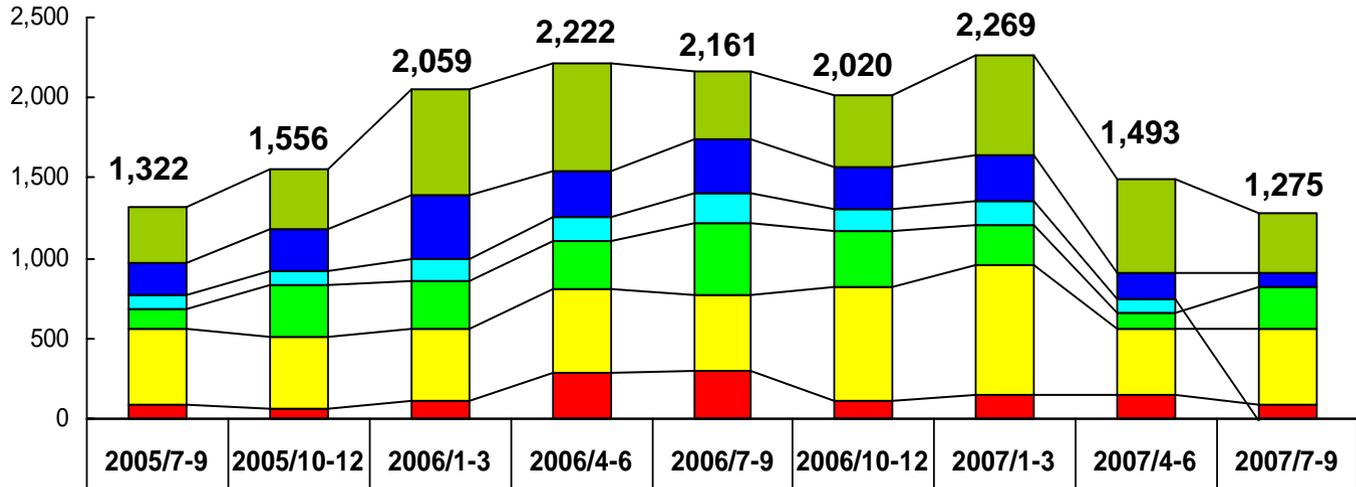
- 2005年10-12月期までは単独ベース、2006年1-3月期より連結ベース
- 単独ベースと連結ベースの主な差異：連結ベースは海外現地法人におけるポストセールス受注を含む



四半期 地域別 SPE+FPD受注額

▶▶ 7-9月期: 韓国・台湾地域の投資が増加

(単位: 億円)

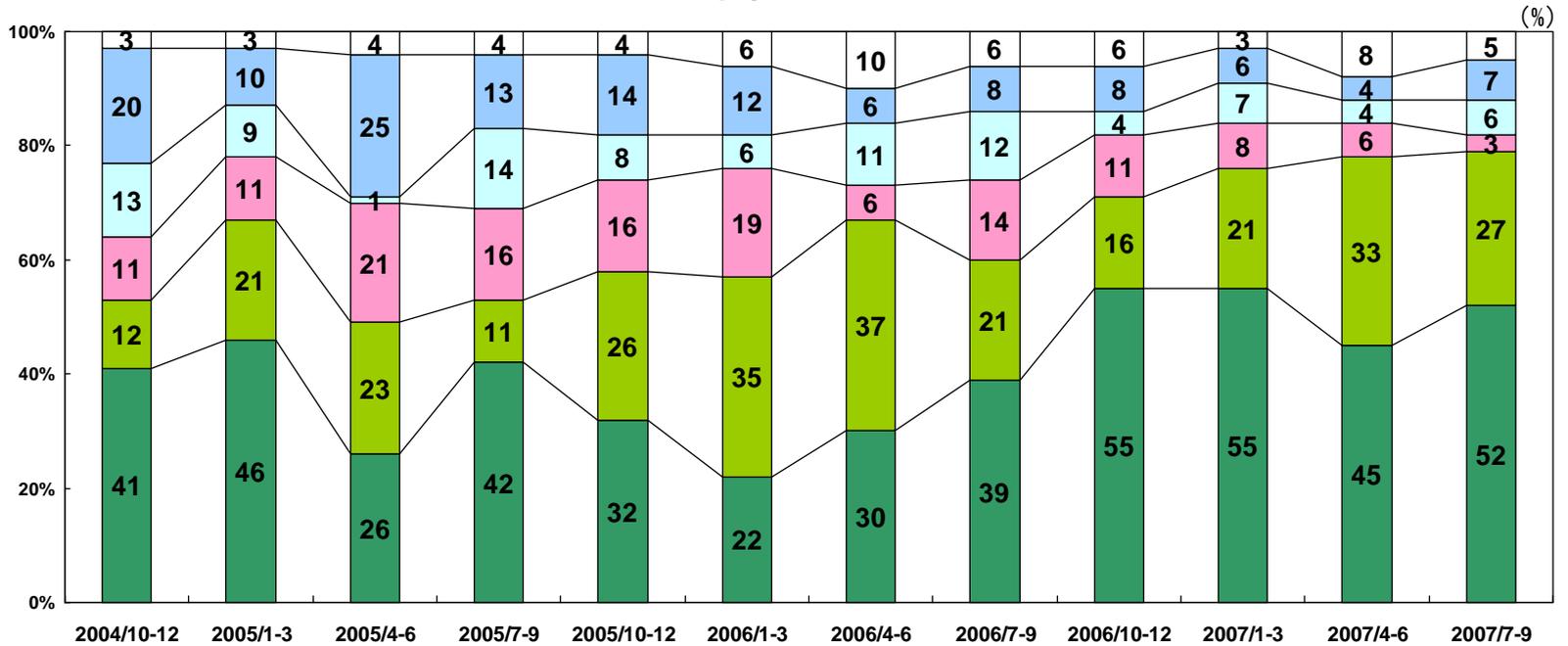


	2005/7-9	2005/10-12	2006/1-3	2006/4-6	2006/7-9	2006/10-12	2007/1-3	2007/4-6	2007/7-9
国内	355	367	666	677	414	451	624	578	378
米国	188	264	399	285	344	264	283	172	81
欧州	93	91	139	145	175	130	149	86	-8
韓国	129	324	290	301	456	353	257	99	268
台湾	468	445	457	529	476	710	804	409	470
中国・東南アジア他	87	62	106	282	293	109	150	147	86

●2006年1-3月期より、受注額を連結ベースで表示しています。



四半期 アプリケーション別SPE受注 (本体のみ)



- その他
- システムLSI
- ロジックファウンドリ
- MPU、ハイエンドロジック
- Flashメモリ
- DRAM

(メモリ内訳は当社推定を含みます)



2008年に向けての事業環境予想

▶ 半導体設備投資

- DRAM: チップコスト低減のための微細化投資は継続される。
ただし、価格下落の影響を受け、投資タイミング変更の可能性はある。
- NAND: 強い需要に下支えされ、各社順調に設備投資を継続。
- LOGIC/ファンダリ向け: 2008年の電子機器需要拡大に向けて最先端設備増強が始まると見る。

➡ 2008年の半導体設備投資は、フラットから5%の成長を見込む。

▶ FPD設備投資

- 2007年は設備投資の谷間の年になるが、2008年以降のデジタルTVの需要拡大に向けて、受注は急回復へ。

2008年3月期 業績見通し



2008年3月期も最高業績更新へ

▶▶SPEとFPDの売上見通しのみを変更。連結売上高、連結利益ともに期初予想から変更はなく、過去最高業績を達成する見込み

(単位:億円)

	2007年3月期		2008年3月期		
	通期	上期(実績)	下期(見通し)	通期(見通し)	対前年増減
売上高	8,519	4,763	4,237	9,000	+5.6%
SPE	6,426	3,792	3,428	7,220	+12.4%
FPD	1,007	436	244	680	-32.5%
EC/CN	1,074	532	558	1,090	+1.4%
その他	11	2	8	10	-10.8%
営業利益	1,439 (16.9)	950 (19.9)	650 (15.3)	1,600 (17.8)	+11.1%
経常利益	1,439 (16.9)	957 (20.1)	683 (16.1)	1,640 (18.2)	+13.9%
税前利益	1,444 (17.0)	982 (20.6)	658 (15.5)	1,640 (18.2)	+13.6%
当期純利益	912 (10.7)	624 (13.1)	416 (9.8)	1,040 (11.6)	+14.0%

()内は売上高利益率%

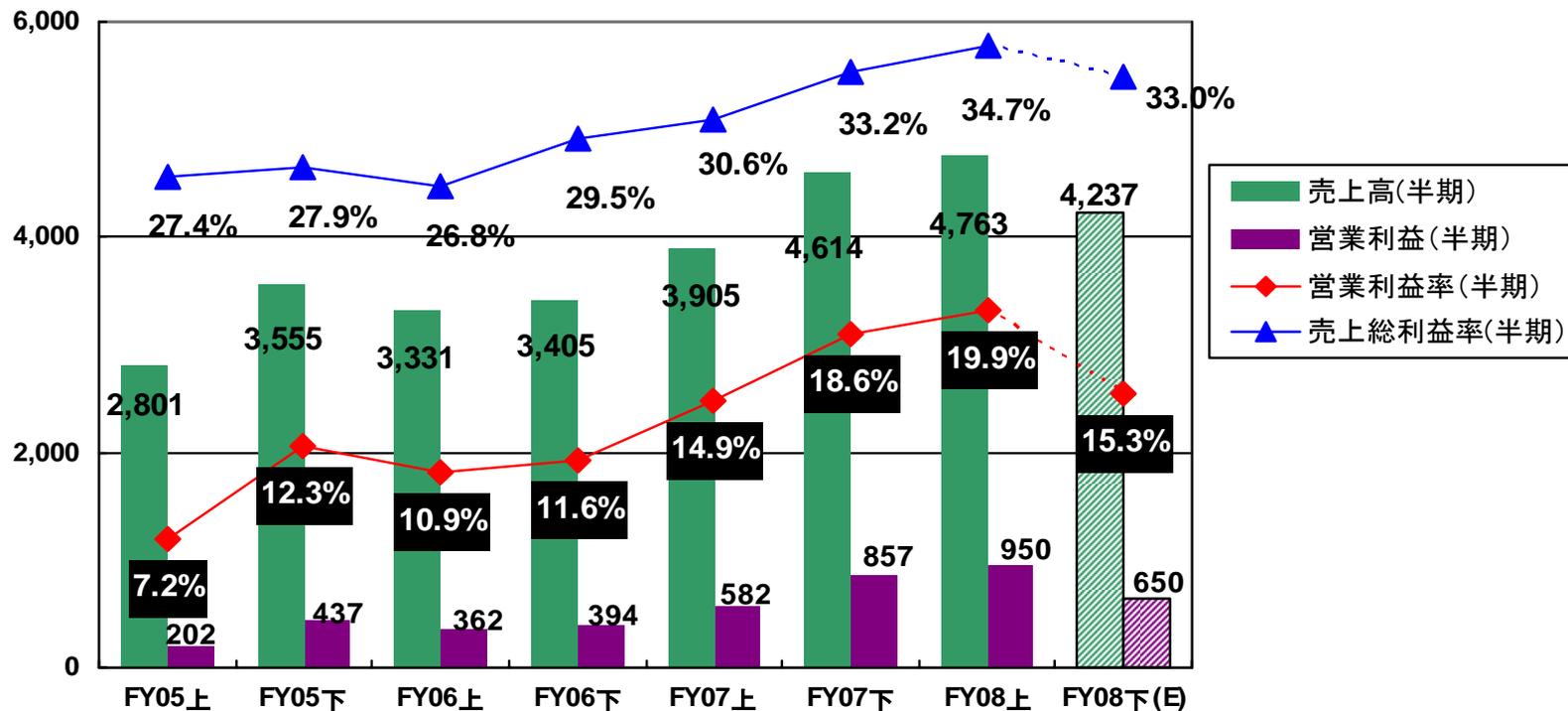
(参考)期初予想: SPE 7,300億円, FPD 600億円



SPE: 半導体製造装置, FPD: FPD製造装置, EC: 電子部品, CN: コンピュータ・ネットワーク

売上高・営業利益率(半期ベース)

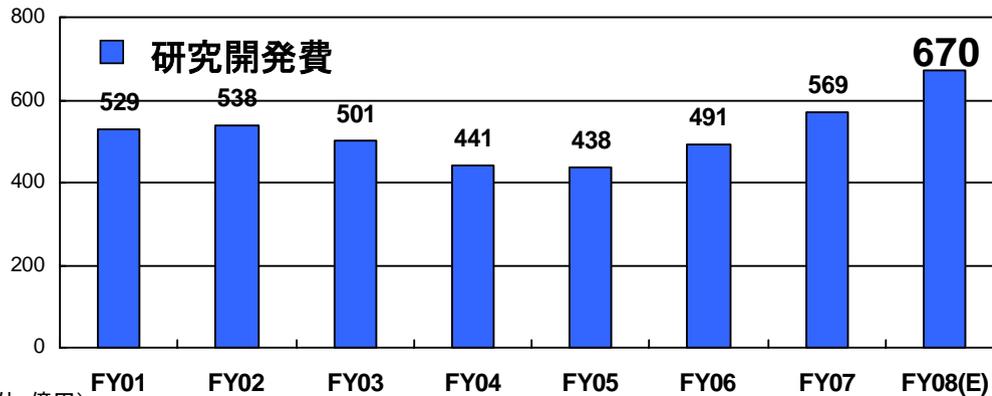
(単位: 億円)



研究開発費・設備投資額

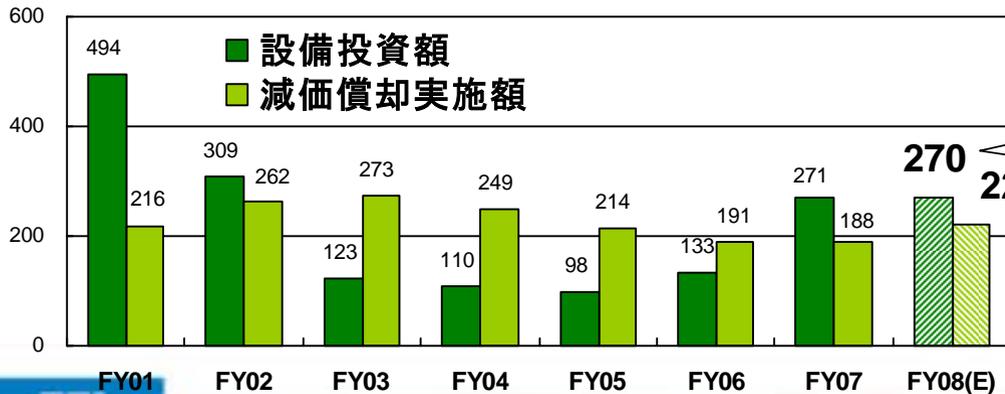
▶▶ 研究開発投資は高水準を継続

(単位:億円)



期初計画比
50億円増額

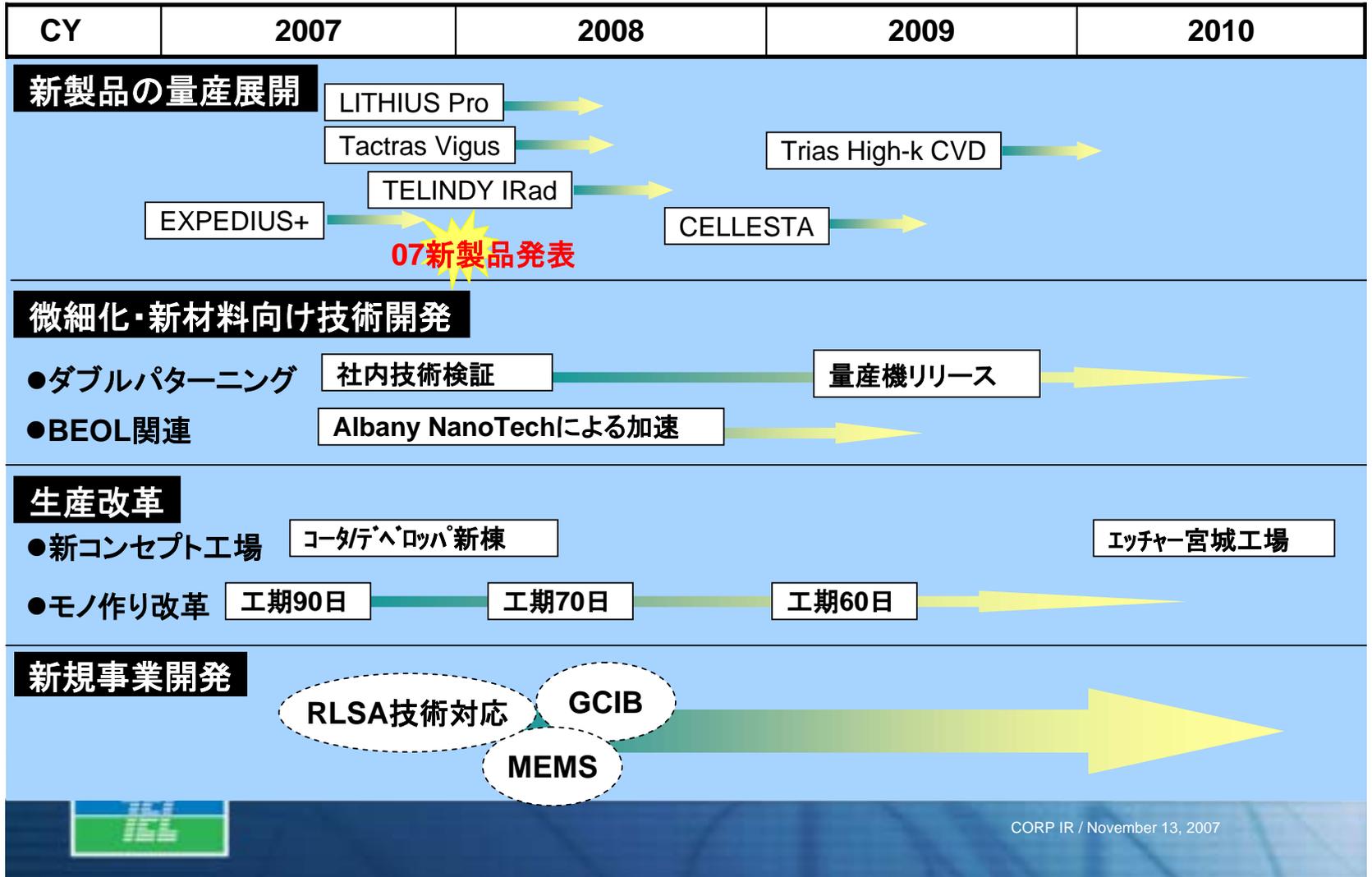
(単位:億円)



設備投資額
期初計画比
50億円増額
(機械装置等)



TEL事業成長のロードマップ



コータ/デベロッパの新工場棟が稼動開始

東京エレクトロン九州(株)合志事業所 第3号棟が竣工



CLEAN TRACK™ LITHIUS Pro™

2009年3月期は250～300台を出荷予定



CLEAN TRACK™ LITHIUS Pro™



TEL 2007 セミコンジャパン テーマ

Inspiration, Innovation

最先端技術と高生産性

現在非常に注目されている新技術に関する東京エレクトロンの取り組みをご紹介します。
また、最先端技術や高生産性を誇る新製品を数多く取り揃えて発表いたします。



サマリー

- ◆ 売上は下期にやや弱含むものの、当期業績は通期ベースで大きな変更はなく、過去最高業績を達成できる見通し。
- ◆ SPE事業環境： 調整期に入るが、DRAMおよびNAND Flash微細化投資は各社順調に継続。2008年後半から回復期待。
- ◆ FPD事業環境： 受注は第3四半期より回復し、来期の設備投資はプラス成長となる。
- ◆ TELは次のサイクルのピーク時に、更に大きな成長を目指す。調整期入りは、次の飛躍への好機であり、備えの時期として重要な意味を持つ。研究開発投資および生産改革のための投資は、戦略的に継続していく。
 - 半導体の微細化・新材料への移行を大きなビジネスチャンスにする。
 - 新規事業開発を強力に推進し、次のスター・プロダクトを創出する。
 - 新工場に於ける理想的な生産体制確立のため、準備期間とする。

